

Granada Si ⑯スペニカ

スペニカは造語。スペインの塗り壁をイメージしたランダム意匠。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダSi	20kg/缶
専用骨材1厘	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
下塗り	エアレススプレー等
基層塗り	リシンガン又はコテ
模様塗り	スタッコガン又はコテ
模様付け	コテ(コテ尻幅65mm程度)

● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマー スーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダSi	20kg	0.8~1.0	1	—	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水 吹付け塗り	1~2kg					
模様塗り	コテ塗り	0~0.5kg	2.0~2.5	1	—		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	グラナダSi	20kg					
	専用骨材1厘	10kg					
パターン 付け	清水	0~0.5kg					追っかけ 模様付け コテ尻幅65mm程度
	材料配り均し後、仕上げゴテ等のコテ尻を使用し、ランダムに引っかき様の意匠付けをする。						
	養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。		—		直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。			—	24以上		

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。
コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

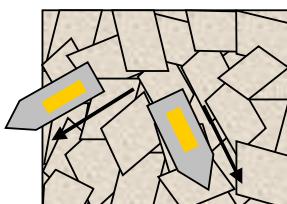
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にませる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるよう
に粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。
特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ②主材は、定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合
する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:180~210mm程度の仕上げゴテや
丸ゴテなどのコテ尻を使用して、ランダムにコテ跡を付け意匠付けする。
- ②パターンの大きさ、コテ継ぎの間隔などにより仕上がり感が異なるため、見本板などであらかじめ設計
担当者に確認を行っておくようとする。
- ③表面皮張りが早いため、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤標準意匠は、コテ尻幅60~70mm程度とし、引き摺り意匠の長さは
75~125mm程度とする。
- ⑥コテ跡は、ラフにコテ跡を付けていくようとする。
- ⑦パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



4. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に
行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。